

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 39 『劍拔弩張』 けんぱつ どちょう

< 意味 > 今にも戦いが始まりそうな緊迫した情勢のたとえ。また、書の筆勢が激しくて、気迫がこもっていることの形容。剣をさやから抜き放ち、石弓をひきしぼる意から。

< 出典 > 「法書要録」に引く「袁昂古今書評」

語 釈 : 「弩」は石弓。ばねじかけで弦を引き絞って石や矢を遠くに飛ばす道具。「張」は弦をはる意。

『漢書』王莽伝の「刃を抜き弩を張る」とあるのによる語。

一 言 : 北朝鮮を取り巻く情勢は、アメリカの空母群が日本海周辺で待機して、今にも戦い始まりそうな緊迫感が漂っています。

「弩張劍拔」ともいいます。類義語に「一触即発（いっしょくそくはつ）」、「一髮千鈞（いっぱつせんきん）」、「刀光劍影（とうこうけんえい）」があります。

参照文献 : 三省堂「四字熟語辞典」